

**目的：**国語科教師を志望する学生の卒業論文作成過程（国語学分野）において、ジェンダーの視点を取り入れた指導の在り方を探求し、その指導法の構築を実験的に試みる。この試みによって、指導する学生の卒業論文の中に、いかなるかたちでジェンダーの視点を取り込まれ・織り込まれるかを検証し、一連の卒業論文作成プロセスでの種々の指導によって、国語専攻の学生が、男女共同参画推進に役立つ有効な知識を習得し、意欲的な態度が育つ指導法を模索する。

**方法：**各自のテーマのうちに、ジェンダーの視点を卒業論文作成の各過程に意図的に導入する。

- (1) テーマ選択、関連文献読解、調査計画・資料収集、データ分析、論文構成・体系化、執筆の各プロセス段階において、ジェンダーの観点から言語表現を捉える観点を意識的に設定する。
- (2) 言語事象における語彙・表現の男女差や変遷、言語運用面での／女性ことば・中立的表現・男性ことば／の相違に着目する。また、その表現論的な働きについて考究する。プレゼンを実施し、相互批評をする。
- (3) 日常生活語、文学テキスト、芸能作品等に現れる、ジェンダーによる言語事象・言語表現の差異の要因とともに、その社会的な意味について、対話し討話し意見を出し合い、共有化する。
- (4) 言語事象・言語テキストの国語科教材化にあたっての課題について、各自のテーマに沿って意見交換。



**成果：**試みた指導法によって、ジェンダーの観点からコトバを主体的に捉える視点が育つとともに、国語科教師を志望する学生として、男女共同参画社会における課題の一端を各自の課題として捉えることができたと思われる。

- (1) 卒業論文の対象とした言語テキスト、言語事象について、単に事象分類やカテゴリー化するにとどまらず、ジェンダーの観点からのまなざしをもって分析作業、執筆活動を行うことができた。
- (2) 社会的な意味や課題について、各自のテーマから資料や意見を出し合って討議し、それぞれの意見を尊重しながら、課題を共有化できた。
- (3) 提出された卒業論文には、それぞれの問題意識から取り組んだ卒業論文テーマの中に無理なく、有効なかたちでジェンダーの視点が織り込まれていた。
- (4) 卒業論文題目とジェンダーに関する記述の節は、以下のようなものである。

**男性向けの雑誌と女性向けの雑誌の誌名**

「現代の雑誌名の研究 ～雑誌の内容との関わりに注目して～」 中島悠菜

**「食」に関するオノマトペの男女差の傾向性**

「現代の若年層における『食』に関するオノマトペ研究」 熊野 綾

**競馬界のジェンダーと実況の関係について**

「競馬実況の面白さ一語りの表現とドラマ性から一」 岡田龍哉

**「伝統を超えた新たな落語へ～見る・演じる楽しみをすべての人のものに～」**

「国語教育に生きる落語の教材化について—小学校での授業実践を通して—」 藤田遥子

**女性ことばの役割語化**

「翻訳年代による女性ことばの変遷 ～『赤毛のアン』の翻訳比較を通して～」 小池彩子

**方言性向語彙における男女差**

「名古屋方言における共通語化の研究—性向語彙の世代差を中心に—」 口丸詩織